

QSK はまゆう 希望の風だより

社会福祉法人 はまゆう福祉会
〒807-0046
福岡県遠賀郡水巻町吉田西3丁目19-11
TEL：093-201-6151 FAX：093-201-8151
E-mail：hamayu-honbu@nifty.com
HP：http://www.hamayu-mizumaki.com/
No.15(vol. 42) 2026年8月7日

にも包括に思うこと

理事長 檜橋 恭一



「にも包括」は国の事業化から9年が経過し、令和4年12月の精神保健福祉法改正により、その理念を実現するための包括的支援の確保が初めて法律上に明記されました。この法改正を踏まえ、今後は「地域版にも包括」をどのように構築するかが重要な課題となります。

遠賀郡には、四町の町長会をはじめ、行政や地域団体で四町連携する基盤があります。この強みを生かし、精神保健福祉も相談・支援体制を郡域で一体的に運用する仕組みを整えられたらと思います。各町で専門窓口を個別に設置するより、郡域で一本化した方が質も効率も高くなるのではと思います。以下の具体例を考えました。

①「遠賀郡精神保健まるごと相談窓口（仮称）」的なものを設置し、相談内容を四町・保健所・医療機関・社協で共有できる仕組みの構築
②医療・福祉・地域住民が同時並行で支援できる郡域型の推進協議会の設置
③郡域で一体運用が円滑にできるよう、保健所に「精神保健連携コーディネーター（仮称）」的なものを配置して、保健所を司令塔とした郡域横串モデルの構築
等を進めることで、地域全体で精神保健を支える包括的な支援体制ができると思います。

制度整備と同時に、精神保健を地域文化として根付かせる取り組みも不可欠です。「精神保健地域連携ネットワーク」を構築し、行政・医療・福祉・地域の住民が継続的に学び合い支え合う風土を育むことが、当事者や家族の孤立を防ぎ、共生社会の実現につながると思います。精神保健福祉法の基本理念には、「障がいの有無にかかわらず、誰もが地域社会で役割を持ち、尊厳を持って暮らせる地域づくりを目指す」と明記されています。

この理念を遠賀郡で具体化するためには、当事者や家族が孤立せず、安心して相談できる場と、地域全体で支える仕組みの両方が必要であり、郡域での一体運用は、その実現に向けた大きな一歩となると思います。

新役員紹介



後任の監事として、加賀淳子氏にお引き受け頂きましたので、ご紹介いたします。

◎加賀淳子氏
小・中学校のPTA会長を経て、2005年から現在も水巻町ボランティア協議会の会長を務められています。また、水巻町社会教育委員、水巻町障がい者施策推進協議会委員、水巻町福祉推進協議会委員を歴任されて、障がい者福祉にも造詣が深く、福岡県の委託事業として開催されている、精神障がい者のスポーツ大会にもスタッフとして、水巻町ボランティア協議会の皆様には、何度もお協力していただいています。

お知らせ

第8回福精連大会

今年度の福精連大会が左記のとおり開催されます。

○日時 8月28日（金）13時30分開会
○会場 ウェルとばた（多目的ホール）
○参加費 会員・当事者無料
賛助会員千円・一般2千円

○内容

【講演】精神障害者ケアの脱家族化
～本人と親双方の自己実現を志向する実践～
【講師】佛教大学社会福祉学部
教授 塩満卓氏

【第2部】家族会・事業所事例発表

はまゆうWEB視聴会

第106回こんぼ亭の見逃し配信の視聴会を開催します。

○日時 8月23日（日）10時開会
○会場 はまゆうサポートセンター
○内容 【講演】知らずに損してない？
もらえるお金と減らせる支出

【講師】日本福祉大学健康学部
教授 青木聖久氏

みんなねっと長崎大会

今年度の全国大会は、長崎県で九州沖縄ブロック大会を兼ねて開催されます。

○日時 11月20日（金）
○会場 ベネックス長崎
ブリックスホール
国際会議場

○テーマ 『共に生きる社会の力』
～次世代へつなぐ平和な未来～
○記念講演 サハル・ローズ氏
イラン出身。孤児院で育ち
8歳で来日。俳優・タレント・映画監督

社会福祉法人はまゆう福祉会 ホームページ・リニューアル版

大変見やすくなりました。是非検索を！
<https://www.hamayu-mizumaki.com/>

ご寄付の御礼

岡垣町民生委員・児童委員協議会の皆様から、利用者さんのために活用してくださいとのことで、いただきました。誠にありがとうございました。

はまゆう家族会賛助会加入のお願い

はまゆう家族会の活動に、ご理解とご協力をいただける方を募っています。

《年会費》 個人様 1口 3,000円
団体様 1口 10,000円

御礼

岡垣町の神谷真幸様にご加入頂きました。誠にありがとうございました。

家族電話相談（福岡県委託事業）

☎家族のための電話相談を受け付けます。☎

精神障がいがある方を、家族だけで抱えていませんか？
同じように悩み、いろいろなことを経験してきた家族が相談に応じます。

【対象者】

心の病（統合失調症、うつ病、発達障がいなど…）を持つ方のご家族。

電話番号：080-1729-1955

相談日時：毎週金曜日 13:00～16:00

※秘密は、守ります。地域福祉情報も提供します。



【編集】社会福祉法人はまゆう福祉会 〒807-0046 福岡県遠賀郡水巻町吉田西3丁目19-11
【発行】QSK九州障害者定期刊行物協会 〒812-0068 福岡県福岡市東区社領1丁目12番4号
【定価】100円 購読料は会費等に含まれます。

にも包括と私たち

センター長 坂栗さつき



まずは「にも包括」の基本理念にふれてみたいと思います。
【共生の精神】

精神障がいを持つ方を、隔離・入院させて治療をする対象と捉えるのではなく「地域で共に生きる一員」として迎える精神であること。障がいの有無にかかわらず、誰もが、地域社会で役割を持ち、尊厳を持って暮らせる「我が事・丸ごと」の地域づくりを目指すこと。

【地域移行・地域定着の支援精神】

かつて日本の精神医療は、社会的入院（本来なら退院出来るのに受入先がないための長期入院）が課題だったが、「入院医療から地域生活へ」を地域で本気で推進する精神である。退院後の住まいの確保や、地域での生活支援（訪問看護、ヘルパー、就労支援）を包括的に提供すること。

【本人主体（リカバリー）の精神】

単にお世話をするだけでなく本人の「こう生きたい」という意思や希望（リカバリー）を最優先的に尊重する精神である。本人と伴走しながら、地域の多様な人々とつながりを作っていくこと。

この基本理念を実際の形とするために、最も大切なことは、各分野がバラバラではなくて「有機的にどう包括されるか」が、大事だと思います。

当施設でも実際あった事例として、18歳から18年間ひきこり状態であった男性を、地域の民生委員さんが、就労サービスに結びつけることができました。同じ地域にこのような施設があることを知らなければ、この男性は、まだひきこもりが続いていた可能性があります。民生委員さんが、あきらめずに、地域を包括的に捉え本人の意思を尊重しながら進めたよい事例と思います。

まだまだ、地域で包括的とは言えない局面に支援員として、壁にあたることもあります。各分野が、バラバラにならずに包括的に、当事者一人ひとりが人生のリカバリーを目指すチームになることを強く希望しています。

地活の日々

所長 伊福 深一



地域活動支援センターは、居場所を目的に、毎日活動を行なっています。

利用者の方たちは、就労継続B型と併用している方が多く、地域活動支援センターを利用することで、作業と余暇活動のメリハリをつけながら頑張っており、曜日を決めて、スケジュールを消化しています。

例えば、月曜日はトランプ、カラオケ、TV鑑賞をし、特にトランプでは、勝ちたいという意欲が出て、必死になっている姿が印象的です。

また、月1回八幡西区にある事業所にダンボール、雑誌、シュレッター済みの紙屑を回収に行っています。

木曜日は、スーパー6か所の買い物巡り、直方にある農産物直売所では、直売所から新幹線を3回見ることができて、新幹線が通った時には満面笑顔で、いつも楽しみにしています。

金曜日は、調理実習をしています。月1回メニュー会議を実施し、当事者からの食べたい物の意見を聴き、隔週ごとに米を使った食べ物、米以外のパン、麺類の料理を作っています。日頃の疲れをとる方、美味しい物を食べたいために利用する方など皆さんの目的は様々です。



グループホームで地域連携推進会議を開催

本年度のグループホーム地域連携推進会議を6月30日に開催しました。本会議は地域との連携を深めることを目的としており、地域代表として町民児協会長や地元地区の民生委員、保護者代表や利用者代表、当施設の施設長と職員、理事長、業務執行理事が参加して、現状報告や意見交換が行われました。添付資料をもとに、規則正しい生活習慣や夜間の見守り体制や利用にかかる月額費用や家賃補助についても具体的に説明し、透明性の高い情報提供がなされました。

また、資料は利用者が守るべき共同生活のルールや、実際に提供される夕食の献立写真も掲載し、暮らしの様子が具体的にイメージできるようにしました。全体として、地域社会との良好な関係を築きながら、安心できる居住環境を維持しようとする取り組みを示すことができました。

また、質疑応答の場では、参加者からの意見や質問を受け、地域社会との良好な関係を促進することを目指し、運営透明化の戦略的背景が語られました。一部に見られる福祉を不当な利益追求の手段とする営利優先の経営は、サービスの質を著しく低下させるだけでなく、利用者の尊厳を損なう重大なリスクをはらんでいますので、当施設はこうした業界の不健全な動向と一線を画し、倫理的卓越性を備えた組織を目指すために、「地域連携推進会議」は、当施設において単なる報告会ではなく外部監査機能となり、組織が「透明性」を宣言することは、単なるコンプライアンスの遵守ではなく、信頼を再構築するための不可欠なプロセスであると思っています。



家族会総会と絆カフェ

5月31日に今年度の家族会総会を開催しました。

第1部は、まず福精連総会で表彰を受けられた川本茂子さんへ授与が行われ、その後事業の報告・計画と決算・予算の報告が行われました。

第2部では、参加者を4つのグループに分け、グループワーク形式で懇談会を行いました。「精神障がい」と一口に言っても、その中には多様な疾患や特性があり、家族が抱える課題もさまざまです。今回は、同じ課題を抱える家族同士でグループを構成し語り合ったことで、互いの体験に深い共感が生まれ、また、これまでの経験から得た工夫や知恵が共有され、多くの気づきが得られる時間となりました。

後日の振り返りでは、「この懇談会を定期的開催してほしい」との意見が多数寄せられ、まずは年2回の開催から始めることが決まりました。さらに、懇談会に名称を付けることが提案され、参加者全員で検討した結果、「絆カフェ」という名前に決まりました。この「絆カフェ」が今後も継続し、名称のとおり家族同士の絆が深まり、さらに深まり強まっていく場として育てていきたいと考えています。

